

平成20年 10月2日	農作物病虫害発生予報 10月	山口県病虫害防除所 山口県農林総合技術センター
----------------	---------------------------------	----------------------------

～目次～	
I 予報の概要	1
II 予報	
【主要病虫害】	2
【その他の病虫害】	7
III 参考(予報の見方、気象予報、10月のテレホンサービスの内容)	8

I 予報の概要

農作物名	病虫害名	予想発生量	現況	
			平年比	前年比
カンキツ	かいよう病	やや少	やや少	少
	ミカンハダニ	やや多	やや多	前年並
ナシ	黒斑病	やや少	少	少
果樹全般	カメムシ類	多	多	多
ハクサイ	軟腐病	平年並	平年並	前年並
	白斑病	やや少	平年並	少
	べと病	やや少	やや少	前年並
	黒斑病	平年並	平年並	前年並
アブラナ科野菜	コナガ	平年並	平年並	前年並
	オオタバコガ	平年並	やや多	多
野菜全般	ハスモンヨトウ	やや多	やや多	前年並

作物	担当者
普通作	藤村(病害) 中川(虫害)
果樹	村本(病害) 殿河内(虫害)
野菜	岡田(病害) 溝部(虫害)

お問い合わせ先	
TEL	(083) 927-4006
FAX	(083) 927-4071

II 予報

【主要病害虫】

カンキツ

1 かいよう病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	台風の襲来前

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は14.3%（平年25.4%）、発病果率は1.2%（平年3.5%）、発病度0.2（平年1.1）で平年に比べやや少なかった（-）。

イ 気象予報では、10月の降水量は少ない（-）。

(3) 防除対策

<防除判断>

すでに発病しているほ場やあまなつ、いよかん等発病しやすい品種では、台風の襲来前に薬剤防除を実施する。事前に防除ができなかった場合には、台風通過後、なるべく早く防除を行う。

<耕種的防除等>

ア 秋に形成された病斑（潜伏病斑を含む）は翌年の有力な伝染源となるので、本病の発生しやすい夏秋梢はできるだけ除去する。

イ 防風樹や防風ネットを整備し、枝葉や果実に傷が付くのを防ぐ。

<防除のポイント>

ア 温州みかんなどかいよう病に比較的強い品種でも多発することがある。特に発病しやすい品種との混植園や近くに発生園がある場合には注意する。

イ コサイドDFやZボルドーなどの無機銅水和剤を散布する場合は、薬害を防ぐため炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）200倍を加用する。

2 ミカンハダニ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	前年並	防除判断参照

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は54.5%（平年25.5%）、寄生葉率は5.3%（平年3.6%）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない（+）。

(3) 防除対策

<防除判断>

防除の目安は、雌成虫の寄生葉率が30～40%以上、または雌成虫密度が1葉当たり0.5～1頭以上である。

<防除のポイント>

ア 発生量はほ場によって大きく異なる。定期的にはほ場を見回り、発生状況を確認する。

イ 葉裏までムラなくかかるよう十分な薬量を散布する。

ナ シ

1 黒斑病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	少	少	収穫終了後

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は60.0%(平年83.0%)、発病葉率は1.8%(平年6.3%)、発病新梢率は15.9%(平年48.7%)で平年に比べ少なかった(－)。

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない(±)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

葉や花芽への感染を防ぐため、収穫終了後の薬剤散布を徹底する。

果樹全般

1 カメムシ類 (チャバネカメムシ、ツアアカメムシ、クサギカメムシ)

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	園地への飛来を確認した時

(2) 予報の根拠

ア 予察灯の誘殺数(県内5か所、8月5半旬～9月4半旬合計)は、754頭(平年303頭)で平年に比べ多かった(+)

イ 気象予報では、10月の気温は高い(+)

(3) 防除対策

<防除判断>

園によって飛来の程度の差が大きいため、特に山間部や山沿いのほ場では飛来状況を確認して防除する。

ハクサイ

1 軟腐病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	8葉期～結球初期

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は11.1%(平年4.3%)、発病株率は0.2%(平年0.2%)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない(±)。

(3) 防除対策

<耕種的防除>

排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。

<防除のポイント>

ア 発生後の防除では効果が劣るので、予防散布に努める。

イ 病原細菌は、風雨に伴う傷口や害虫による食害痕から侵入するため、台風前後の防除と害虫の防除を徹底する。

2 白斑病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	平年並	少	発生初期および結球初期以降

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%(平年5.4%)、発病株率は0%(平年1.6%)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない(-)。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

ア 連作、肥料不足等は発病を助長するため、イネ科作物との輪作や適正施肥に努める。

イ 風媒伝染するため、被害残渣は土中に埋める。

<防除のポイント>

べと病、黒斑病と同時防除を実施する。

3 ベと病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	前年並	結球開始前まで

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%(平年15.4%)、被害株率は0%(平年6.4%)で平年に比べやや少なかった(ー)。

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない(ー)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 結球開始前までの防除を徹底する。

イ 同一薬剤の連用及び同一系統の薬剤間での輪用は避ける。

4 黒斑病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は11.1%(平年10.8%)、被害株率は0.2%(平年0.8%)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない(±)。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

ア 肥料不足で発病を助長するため、適正施肥に努める。

イ 風媒伝染するため、被害残渣は土中に埋める。

アブラナ科野菜

1 コナガ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	若齢幼虫時

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率は0%(平年8.3%)、10株当たり虫数は0頭(平年0.1頭)で平年に比べやや少なかった。キャベツでの発生ほ場率は0%(平年10.1%)、10株当たり虫数は0頭(平年0.4頭)で平年並みであった(±)。

イ 山口市大内のフェロモントラップにおける9月の誘殺数は、平年並みであった(±)。

ウ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない(+)

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 有機リン、ピレスロイド、IGR系の薬剤はコナガに対する効果が低い場合があるので、薬剤散布後は効果を確認し、効果が十分でない場合は他の薬剤(BT剤やスピノエース顆粒水和剤、アフーム乳剤等)に変更する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

2 オオタバコガ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	やや多	多	若齢幼虫時

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率は22.2%(平年4.1%)、寄生株率は1.3%(平年0.1%)で平年に比べ多かった。キャベツでの発生ほ場率は0%(平年7.2%)、寄生株率は0%(平年0.4%)で平年並みであった(±~+)。

イ 山口市大内のフェロモントラップにおける9月の誘殺数は、平年に比べやや少なかった(-)。

ウ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない(+)

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、幼虫を見つけ次第、捕殺する。

<防除のポイント>

ア 生長点を食害されると被害が大きいため、特に結球前の薬剤散布を徹底する。

イ 中齢以降の幼虫は結球に食入するので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	前年並	若齢幼虫期 (10月中旬~下旬)

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率は22.2%（平年24.1%）、寄生株率は1.3%（平年1.0%）で平年並みであった。キャベツでの発生ほ場率は58.3%（平年38.1%）、寄生株率は5.7%（平年3.4%）で平年に比べやや多かった（±～+）。

イ 県内のフェロモントラップ（5か所）における8月5半旬～9月4半旬の誘殺数は平年並みであった（±）。

ウ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量は少ない（+）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

ア 地域により発生時期・発生量にばらつきがあるので、ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集中した葉は見つけ次第捕殺する。

イ イチゴ等の施設栽培では、ビニールハウスのパイプ等の比較的高い位置に産卵することが多いので、ほ場を見回り、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけ次第捕殺する。

<防除判断>

10月中旬から下旬にかけて連続して若齢幼虫が発生すると考えられるので、定期的にはほ場を観察し、必要に応じて防除を実施する。

<防除のポイント>

ア 中～老齢幼虫には薬剤の効果が悪くなるので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
アブラナ科野菜	ハイマダラノメイガ(キャベツ)	平年並	平年並	少	0	6.7	
	ウワバ類(キャベツ)	平年並	平年並	少	8.3	12.9	
野菜全般	アブラムシ類	やや多	やや多	前年並	—	—	山口市の黄色水盤による9月の誘殺数は平年に比べやや多かった。
	シロイチモジヨトウ	平年並	平年並	前年並	—	—	山口市のフェロモントラップによる9月の誘殺数は平年並みであった。

Ⅲ 参考

1 予報の見方

(1) 病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

（注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1か月気象予報（9月26日福岡管区気象台発表）

予 報	低 い(%) 少ない	平年並(%)	高 い(%) 多い
気 温	20	30	50
降 水 量	40	30	30
日照時間	30	40	30

週ごとの気温傾向

予 報	低 い(%)	平年並(%)	高 い(%)
1 週 目	40	40	20
2 週 目	10	30	60
3～4週目	20	40	40

3 10月のテレホンサービスの内容（予定）TEL(083)927-4649

時期	内 容
上旬	10月の発生予報、カンキツ病害虫の防除、ナシ黒斑病の防除、トマト黄化葉巻病・黄化えそ病対策
中旬	野菜病害虫の発生状況と防除、トマト黄化葉巻病・黄化えそ病対策
下旬	ダイズ収穫時の紫斑病対策、野菜病害虫の発生状況と防除、ムギの種子消毒、トマト黄化葉巻病・黄化えそ病対策